



◆「秋の雲」の話／空に浮かぶ雲を眺めて、秋を感じよう！～10/6 全校朝会にて

10月6日（火）本年度第4回目の全校朝会があり、はじめに、子ども達に対し、運動会での頑張りをあらためて称賛した後、子ども達に、秋の季節を感じてみよう！ということで、「秋の雲」の話をしました。



<秋の空に浮かぶ「雲」の話>

さて運動会も終わり、いよいよ一年間で最も過ごしやすい季節、秋がやってきました。また、秋といえば、スポーツの秋、学びの秋、食欲の秋、読書の秋、芸術の秋、行楽の秋、等々。〇〇の秋という言葉がたくさんあります。秋は、何をやるにしても、最も適した良い季節だということです。是非、みなさんも、何か目標を立てて、チャレンジしてみてください。

さて、秋という季節の話に戻りますが、…

テレビの天気予報の番組を見ていますと、これからは気温も徐々に下がり、今まで湿った空気もさらりとした乾いた空気になり、心地よい風が吹いてきて、いよいよと本格的な秋の季節がやってくるということです。

もう、みなさんの中には、もうすでに秋を感じている人がたくさんいると思いますが、今日は、秋の季節を感じるものの中で、雲の話をしてあげたいと思います。

写真1 これは、夏の雲を代表する「積乱雲」またの名を「入道雲」といいます。夏の雲は、ほとんどがこの「入道雲」と呼ばれる雲で、この大きな雲がたくさん空に浮かんでいます。そして、暑い、暑い夏が終わり、秋が近づいてくると、気温が少しずつ下がってきて、日本には大陸からいろいろな性質を持った空気が次々とやってきます。夏の空でたくさん見た「入道雲」も次第に姿を消し、夏の空とは違ういろいろな雲が秋の空に現れてきます。

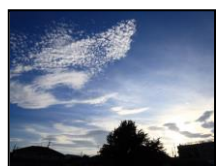
たとえば、**写真2** 「うろこ雲」と呼ばれる雲です。この雲は、名前の通り、魚の鱗のように見える雲です。この雲が現れると、天気が雨になるといわれています。

また、雲の形の見え方によっては、**写真3** 「いわし雲」（→ 鰯が群れて泳いでいるような様子）

写真4 「さば雲」（→ 鯖の背中のような形）と呼んだりします。おもしろいですね。

次に、**写真5** 「ひつじ雲」と呼ばれる雲です。これも名前の通り、空に何百頭もの羊が群れているように見える雲です。この雲も、天気が雨になるといわれています。

次に、**写真6** 「はね雲」と呼ばれる雲です。この雲は、雲の中で一番高いところにできる雲で、鳥の羽を広げたように見えることから、「はね雲」と呼ばれています。



【写真1】入道雲

【写真2】うろこ雲

【写真3】いわし雲

【写真4】さば雲

【写真5】ひつじ雲

【写真6】はね雲

秋は、日本が最も美しく輝く季節です。そして、季節の移り変わりを最も感じる季節でもあります。移り変わる季節を感じ取る豊かな心（感性）を持ってほしいと思います。

空に浮かぶ雲も移り変わり、いろいろな姿に変えて現れます。次々と形を変える雲を見て、どんな形に見えるのか、そういったことを想像してみても楽しいと思います。ぜひ、今年の秋は、空に浮かぶ雲を眺めてみてください。いろいろな発見があるのではないのでしょうか。

※ 翌日、私のところに「〇〇雲」を見つけたよ、と言ってくる子ども達がたくさんいました。とても嬉しく思いました。これからも、ふるさと古枝の自然にたくさん触れて、感性豊かな子どもに育ててほしいと願っています。

◆ 第5弾 2020. 地域と共に創る学校づくり



< 5年米作り体験Ⅲ >

～ 心豊かな古枝っ子を目指して

これまでの米作り体験学習は、「田植え体験」が終わると、次は、毎年10月に行われる「稲刈り体験」に取り組んでいました。その間、子ども達は、夏休みに、田んぼの雑草を除去したり、稲刈り前の9月には、案山子を作ったりしていました。

本年度は、5年生の米作り体験学習の一環として、新しく2つの「米作り学習会」を企画・実施いたしました。今回、案山子作りの様子と併せて、以下にて紹介します。

① 5年米作り学習会Ⅰ～三原実さんとの学習会（7月29日 水曜日）

田植えが終わり、5年生の米作りがひとまず一段落して1ヶ月ほど経ったこの日の5、6時間目、現在、佐賀県農業試験研究センターで、作物部長として、佐賀県の農業の発展に日夜ご尽力なさっている、三原実さん（奥山在住）を講師にお招きし、米作りについてさらに学習を深めるための学習会を開催しました。

まずは、体験学習や社会科の授業で、米作りについて学習してきたことを発表し、三原さんに聞いてもらいました。その後、子ども達は、三原さんへ「安全な米作りとは?」「効率的な米生産とは?」「JAって何?」等々、米作りについてたくさんの質問をしながら学習を深めていきました。奥山地区の江戸時代末期の米作りの様子と現在の米作りの様子を比較しながら、古枝の米作りの歴史についても学びました。稲の花やバケツ栽培の注意点などについても習いました。

子ども達は三原さんを通して、社会科の教科書には載っていないたくさんのことを学ぶことができ、米作りについて自分達の学習がさらに広がり、深まっていくことを実感していました。



【子ども達の学習発表】



【三原実さんの話】

② 5年案山子作り（9月25日 金曜日）

本日5年生は、総合的な学習の時間を使って、5グループに分かれてみんなで協力しながら楽しく案山子作りに取り組みました。でき上がった5体の案山子は、みんなで協力して学校の田んぼに運び、稲穂を見守るような感じで田んぼに立てました。

最後に、5体の案山子に向かって、「私達のお米を守ってください。」とみんなでお祈りしました。すでに稲穂は黄金色に輝いており、今年は豊作のようです。子ども達は10月の収穫をとっても楽しみにしていました。



【案山子と記念写真】



【田んぼに立てた案山子】

③ 5年竹ノ木庭水道学習会・見学ウォーク（9月29日 火曜日）

この日の4時間目、5年生は鹿島市教育委員会学芸員の高橋研一さんをお招きし、竹ノ木庭水道学習会を行いました。子ども達は、高橋さんから竹ノ木庭の歴史や竹ノ木庭水道が造られた歴史的経緯、嶽水道と竹ノ木庭水道の違いなどの話を聞き、竹ノ木庭についての知識を深めました。

その後、午後から実際に竹ノ木庭へ行き、地域の人達と一緒に竹ノ木庭水道を歩きました。嶽水道と同じように滑らかな傾斜の水道が約1km（嶽水道は5km）にわたり敷かれ、冷たい透き通った水が気持ちよく流れます。約200年前の竹ノ木庭住民の土木技術の素晴らしさを感じることができました。

当日は快晴で、水道には木漏れ日が差し込み、とても気持ちいい見学ウォークとなりました。ゴール地点には水神様が祀っており、子ども達は、竹ノ木庭の集落まで水を絶やさず送ってくれる水神様への地区の方の感謝の気持ちが込められていることを知りました。また、子ども達は、上流の方へさらに10mほど登り、200年前に造った当時の姿をそのままに残す水道も見学しました。細い水道が手作業で作られているのを見て、大いに感心していました。最後は、ゴール地点に山から引かれてきた地下水をいただきました。子ども達からは「とっても美味しい、最高ー!」と歓声上がり、山の恵みのありがたさを大いに感じていました。



【学芸員 高橋さんの講話】



【水道のスタート地点】



【水道を歩く】



【水道のゴール地点】



【200年前の水道】



【山の恵みの地下水】